



目次

P2 高知市農業施策等に関する意見書を提出、  
広島県世羅町農業委員会へ視察研修

P3 中古ハウスの借入れから地域との関係を  
深める、農地の適正な管理について

P4 農地銀行、「人・農地プラン」の取組が  
変わります

2020年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。皆様には、平素より農業委員会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

早いもので、今年7月には現在の委員が任期満了を迎えます。課題山積する中、結果で応えることができない歯がゆさを感じながらのスタートでしたが、体制や仕組みも整い、2年目からようやく中山間地域、田園地域、都市部それぞれの農地の利用を意識した活動を始めることができました。

そのような中、この1月には、市街化区域内の農地において、生産緑地制度の導入による本市初めての都市計画決定が行われることになりました。地域の農業者にとっては待望の政策であり、当委員会にとっても農業者の声が政策に届いたことを大変うれしく思っています。

今、国は、担い手への農地の集積・集約化の動きが低調なことからこれを加速化させようと、人・農地プランの実質化に向けた活動を広げようとしています。これは、話し合いなどを通じて、5～10年後の農地利用を地域で考え、大切な農地を担い手に引き継いでいくものです。

高知市でも、ここ20年の間に農業従事者が半減し、中山間地域においてはさらに深刻な状況となつています。今年、中山間地域等直接支払制度の第5期対策への移行時期でもあり、どれだけ多くの農地が協定農



高知市農業委員会  
会長 大野 哲

## 年頭のごあいさつ

用地に登載されるのかも気になるので、昨年、当委員会では遊休農地の増加が続く鏡、土佐山地域を限定に、就農の多様化に対応できるように、農地取得における下限積要件を緩和しました。新しい担い手にも農地が引き継がれることを期待しています。

農業者の高齢化は、田園地域でも進んでいます。施設園芸の盛んな春野地域では、キュウリの生産量を維持すべく、数年前から産地をあげて新規就農者の確保に取り組んでいます。しかし、就農時における園芸用ハウスの確保では中古ハウスに頼ることが多く、当委員会もこのあつせんに関わることを思っています。就農者の不安を払拭する施策が望まれます。

今、地域農業は大きな転換期を迎えています。今回の国が進める人・農地プランの実質化に向けた取組をきっかけにしながら、行政や農業委員会等も連携して、地域農業の未来図作成が急がれます。

2月には、農業委員と農地利用最適化推進委員の募集も予定されています。時代が変化中、引き続き地域の農業者の代表として頑張ってください。今後とも当委員会へのご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

## 農地銀行

農地を売りたい・貸したいときは農業委員会にご相談ください。

農業委員会では、農地の出し手からの「売りたい」「貸したい」という申し出や、農地の受け手からの「買いたい」「借りたい」という申し出を受け付けています。「農地が荒れてしまう前に誰かに使ってもらいたい」などのご希望がある場合は、農地等あつせん相談員（農地利用最適化推進委員、JA高知市各支所長、JA高知県春野支所信用課）または農業委員会事務局（☎823-9484）にご相談ください。

### 農地情報(令和元年11月現在)

単位：件

地区	売りたい		貸したい	
	田	畑	田	畑
朝倉	1	1		1
旭				2
鴨田	1	2	1	1
初月		1		
秦		1		1
一宮		1		
布師田	6			
高須	4		2	
五台山	3	2		
三里	2	5		2
長浜	6	9	4	4
介良	4	1	3	1
大津	15	1	1	
鏡	2	1	2	
土佐山	1		1	

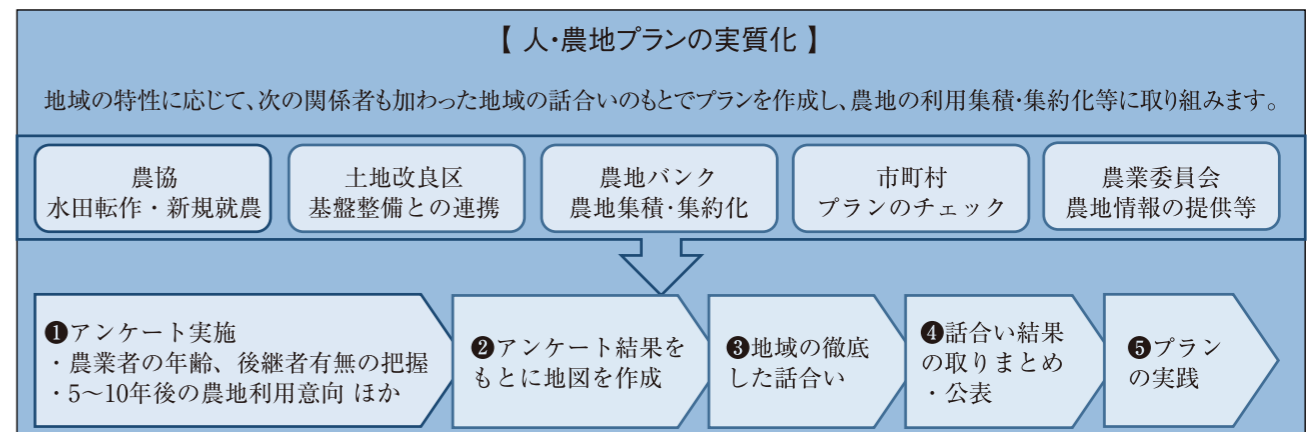
  

地区	売りたい		貸したい	
	田	畑	田	畑
弘岡上	7	4	2	1
弘岡中	11	2	8	
弘岡下	16	2	8	
西分	5		4	
芳原	5	1	1	2
内ノ谷			3	
西諸木	3	1	1	
東諸木	8	1	3	1
秋山	15	1	6	1
甲殿	6		1	1
仁ノ	4	1	7	1
西畑	3		2	
森山	7	2	1	
平和		1		

## 農地中間管理事業の見直しから「人・農地プラン」の取組が変わります。

「人・農地プラン」の取組は、地域が抱える「人と農地の問題解決」のため、地域における話し合いなどを通じて地域農業の将来のあり方をまとめ、中心となる農業者を地域で支えるなど、5年後、10年後の地域農業の維持・発展を目指すものとして始まりました。このプランに位置づけられると、新規就農や農地の集積などで国などから支援が受けられる仕組みとなっています。

今回、この「人・農地プラン」を真に地域の話し合いに基づくものにする観点から、市町村、農業委員会などの関係者の参加の下で、今後概ね2年程度で、各地域で実質的な「人・農地プラン」を作りあげていくこととなりました。国から示された「人・農地プラン」の進め方は次のとおりとされ、このプランを実効性のある内容にしていく作業が各地域でこれから始まろうとしています。



※「農地バンク」とは、農地中間管理機構を指す。

## 令和2年度における高知市農業施策等に関する意見書を提出

令和元年10月24日、高知市農業委員会は「令和2年度における高知市農業施策等に関する意見書」を高知市長に提出しました。意見書の主な内容は次のとおりです。

### 1 農地等の利用の最適化の推進に関する要望

#### 【担い手への農地利用の集積・集約化に関する要望】

「人・農地プラン」への取組強化と農地中間管理事業の推進、農業基盤の整備等による基幹作物の生産振興及び規模拡大のための支援、多面的機能支払交付金制度の導入支援。

#### 【耕作放棄地の発生防止・解消に関する要望】

有害鳥獣被害防止のための予算と新たな狩猟者の確保、市街地を中心としたハクビシンの被害対策、稲作におけるジャンボタニシの食害対策、放置竹林による侵食被害防止のための取組、中山間地域等直接支払制度第5期対策移行の支援。

#### 【新規参入の促進に関する要望】

新規就農者等に提供する中古ハウスの確保を図る仕組みと支援制度の創設、後継者確保のための親元就農支援の拡充、認定農業者制度の周知と営農指導体制の強化。

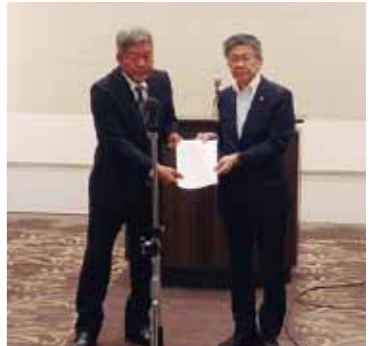
### 2 高知市の農業発展に関する要望

市街化区域内農地保全のための生産緑地制度の拡充、農業用タンクの津波被害対策への支援拡充、大規模災害からの復旧・復興に必要な地籍調査の実施、農業ICT技術等を活用した機械化・施設化の推進、農業用水の水質保全と安定供給のための予算確保、学校給食米の全量高知市産使用に向けた施策実施、春野町仁ノ地区の農地排水対策の推進、農業振興地域整備計画の変更手続きの改善と全体見直しの実施、農業委員会活動に対する予算措置。

### 3 国・県への要望

食料自給率向上のための農業施策の拡充、農業者年金における保険料補助の拡大、農業次世代人材投資事業の制度見直し、春野地域における新川川流域の治水対策。

意見書(全文)については、高知市のホームページ(<http://www.city.kochi.kochi.jp>)に掲載しています。



## 広島県世羅町農業委員会へ視察研修

### 荒廃農地の判断基準などについて学ぶ

高知市農業委員会は、令和元年8月28日に広島県世羅町農業委員会(小迫高会長)を訪問し、同委員会の先進的な取組について研修を行いました。

世羅町は、将来にわたり守り活かす農地を絞り込むため、農地として再生利用が困難な荒廃農地を非農地判断して、農地を管理する台帳から外す取組を行っています。

研修では、農地パトロールから非農地判断までの流れなど詳しい取組内容を紹介いただいた後、質疑応答となり、取組の成果や課題などについて、高知市農業委員、農地利用最適化推進委員から多くの質問が出ていました。

高知市でも、中山間地域を中心に農地が山林化するなどの荒廃化が見られることから、研修したことを参考に荒廃農地対策を今後進めていく必要があります。

そのほか、有害鳥獣対策など、お互いの取組事例を交えながら活発な意見交換ができ、今後の農業委員会活動の参考となる有意義な研修となりました。



## 中古ハウスの借入れから地域との関係を深める

新規就農者等に中古ハウスを提供する支援に関する取組事例

春野地域では、JAを中心に新規就農者の確保に取り組んでいます。新規就農者が、研修後に農家として自立するときの悩みのひとつに、園芸用ハウスの調達があります。中古ハウスを借受けるという方法もありますが、土地所有者等の方がハウスの貸借に応じられない場合もあり、手ごろな中古ハウスが見つかる可能性は、それほど高くないのが実情です。

高知市農業委員会でも、農地のあっせん活動の中で、農協や地域の方の協力をいただきながら、新規就農者の中古ハウス探しを支援しています。

高知市内で新規就農された方の事例として、令和元年8月から、春野町仁ノ地区で中古ハウスを借りてキュウリの栽培を始めた吉次康裕さん(41歳)をご紹介します。

吉次さんは、千葉県の非農家の出身で、高知市出身の奥さんの帰省に同行する度に、高知への移住の気持ちが強まっていたそうです。

農業に関心を持つようになったのは、東京で行われた高知県立農業担い手育成センター主催の「こうちアグリスクール」に参加して、春野町仁ノ地区で就農した講師の話聞いたのがきっかけのことです。そこで、思い切って仕事を辞めて高知へ移住。同センターでの1年間の研修を受け、その後、仁ノ地区で営農する指導農業者の下で農家研修を積みまします。

もともとキュウリは食べるのも好きで、東京で出会った講師の元へは研修中にも行き来していたとか。就農地に仁ノ地区を選んだのも、そのような理由で最初から希望していたそうです。仁ノ地区について尋ねると、「よそ者感がなく、温かく受け入れてくれる土地柄が気に入っている」という返事が返ってきました。

吉次さんが借りているハウスは約10アールで、借り受ける際にはハウスの所有者の了解を得て、ハウス内の木の施設資材はすべて鉄材に

変えたそうです。修繕費や設備投資は、無利子の青年等就農資金を充て、突発的な支出に備えて自己資金はなるべく残すように心掛けてのこと。奥さんも時々手伝いに来てくれるようですが、一人では10アールの規模が一杯で、作業が追いつかない面もあるそうです。当面は、反収25トンを目指して日の出とともにハウスに入り、日の入りまで頑張るといって毎日が続いています。

地元の農地利用最適化推進委員から吉次さんの人柄について聞くと、「仁ノでは太刀踊りなどの行事にも参加し、農協青壮年部にも入るなど地域にとけ込もうと頑張っている。自分たちにとっても励みになる」とのこと。吉次さんからも「地元の方がハウスに立ち寄ってくれ、声を掛けてくれますよ」と見守ってもらえることに感謝していました。

最後に、今後のことについて尋ねると、「農業は楽しくやりますがもあります。作業で楽をしたくなることもあり、自らの甘えをどのように抑えていくかが大事ですね。地域や仲間にも恵まれ、家族も増えることになったので、家族や農業仲間とも励ましあって頑張っていきたい」と抱負を語ってくれました。

中古ハウスの借入れを通して地元との関係も深まり、そのことが吉次さんの営農への励みにもつながっていることがわかりました。これからの活躍を期待しています。



## 農地の適正な管理を

### お願いします

農業委員会では、毎年5月から10月頃にかけて農地パトロールを実施し、遊休農地の把握と解消に努めています。

令和元年度も農地パトロールを実施し、遊休農地として確認した農地については、土地の所有者や耕作者の方に、農地の利用意向調査、もしくは草刈りのお願いの文書を昨年11月に発送しました。

また利用意向調査では、地域の農業委員農地利用最適化推進委員から直接、農地の利用について意向などをお聞きする場合があります。

農地の所有権や賃借権を持つ方は、農地法で農地の農業上の適正かつ効率的な利用を確保しなければならぬことが定められています。

また、農地が耕作放棄されると、病害虫の発生を招いたり、冬季には火事の原因になるなど、周囲の農地を耕作している方や、周辺に居住している方にも迷惑がかかります。

農地の所有者や耕作者の方は、耕作を行わない農地についても、草刈りなどの保全管理を行っていただきますようお願いいたします。

また、ご自身での農地の管理が難しい場合には、耕作をしてくれる方を早目に探すことで、遊休農地化を防ぐことができます。農地中間管理機構(高知県農業公社)や高知市農地銀行を通じて、農地の売買や賃借の相手方を探すことも可能です。

高齢のため農地を耕作することが難しくなっている方、後継者がおらず将来の農地の管理が心配な方などは農業委員会事務局(0823-9484)にご相談ください。

